

## 外来語の表記に関する実態調査の概要 (案)

外来語の表記に関する実態を把握する。特に、「外来語の表記」(平成3年内閣告示第1号)が取り上げてこなかった、新たな表記が定着しているかどうかを確認する。

- I 令和5年6月1日現在の日経 500 選定銘柄における、令和4年12月及び令和5年6月分の報道発表(プレスリリース、ニュースリリース等)に使用された片仮名表記による語を全て収集し、その実態を把握する。
- II 国の各府省庁等が令和4年度又は5年度6月までに発表した白書(20冊程度。詳細は文化庁と協議の上決定する。)に使用された片仮名表記による語を全て収集し、その実態を把握する。
- III 大学等研究機関とそれらに所属する研究者が令和4年度又は令和5年度6月までに発表した学術論文200本程度に使用された片仮名表記による語を全て収集し、その実態を把握する。その際、論文の分野、内容の均衡に留意する。
- IV 英米以外の外国の人名、地名、品名等の表記(例:日本国内で出版されている各国の観光ガイドブック、サッカーW杯2022、ラグビーW杯2019、東京オリンピック・パラリンピック2020の参加選手名、海外ブランドの公式ウェブサイトの商品名、ゴルフ、テニス、卓球等の世界ランキングに現れる選手名、各国料理店のメニュー等に見られる外来語・外国語の片仮名表記等)を延べ5万語程度、各分野の均衡に留意しつつ収集し、その実態を把握する。

※ I~IVのいずれについても、次の3点の処理を行う。なお、複合語の扱いなど詳細については随時文化庁と協議して進めることとする。

- ① 語ごと(表記ごと)の頻度数を集計する。
- ② 「外来語の表記」(平成3年内閣告示第1号。リンク先参照)が取り上げていない表記(例:キュー、スイ等)があれば抽出する。
- ③ 同じ外国語に基づく外来語でありながら表記の揺れが見られるもの(例:エレベーター/エレベータ、パーティション/パーテーション)を抽出する。